



結

2017. 11. 18 No.78 yui

発行「憲法9条の会つくば」
〒305-0005
つくば市天久保 1-10-12 1-401
TEL 080-5888-7824
Fax 029-856-2286



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>

憲法9条の会つくば12周年記念 たくさんの皆様のご参加、 ありがとうございました。

10月9日(祝)、3連休の最終日開催の「12周年記念のつどい」でしたが、200名を超える参加者とVOJA-Tensionの皆さんの若々しいパワフルな歌声で会場は大いに盛り上がりました。VOJAさんの歌声にひかれて若い参加者の数も多く、川田忠明さんの講演に対しても若い方からユニークな質問がいくつか出ていました。今回の川田さんの講演は、現在緊張が高まっている東アジア情勢や北朝鮮とアメリカとの関係などに新しい視点を持つことができる、時宜にかなったものでした。今号で別刷りで要旨をお届けしています。「つどい」実行委員長の堀部一寿さんからメッセージが寄せられていますので、ご紹介します。



今年のつどいの企画を考える段階で、「何か音楽の企画で、皆さんで楽しめるものを、ゴスペルなどどうでしょう？」という話が出て、共同代表のみなさんとも相談しながら、VOJA-Tensionの皆さんに来てもらえ

ないだろうかということになり、私が窓口として話しを進めることになりました。

企画の段階で、まずVOJA-Tensionの皆さんにも、平和をテーマとした曲も歌って欲しい、地元で歌うメンバーを集めてそのメンバー達と一緒にステージで歌って欲しいなどの要望も出しましたが、快諾してくれました。その地元のメンバーには、私が指導するつくばと守谷のゴスペルサークルのメンバー35名と一般公募に応募して下さった15名の計50名が当日ステージで共演致しました。

その50名の多くは、当会の存在や、9条の会の活動そのものも知らなかった方も多くいます。そういった人達にゴスペルを歌う目的のためとはいえ、同じ場で集い、前半に行った川田忠明さんの講演を聞いてもらって、何かしら心に感じるものを持ってもらえたこともとても良かったと思います。

9条の会のメンバーとして、このつどいに参加した皆さんも、この活動に関わる方の高齢化を懸念していることと思いますが、ゴスペルを若い人達が元気に歌い、共に平和のメッセージをステージで表現する姿を見て、闇の中に一縷の光を感じて頂けたのではないのでしょうか？

政治の現状を考えると、もっともっと多くの方につどいにも参加してもらいたかったですが、突然の解散総選挙という混乱の中では精一杯のことはできたのではないのでしょうか？これを、ぜひ次につなげていきたいと思います。

12周年記念のつどい実行委員長 堀部一寿



衆議院選挙結果と今後の9条問題 —安倍9条改憲NO!に向けて

10月22日の衆議院選挙結果をどう考えるか、様々な意見が出されている。辛淑玉(シン・スゴ)氏はこの日を「日本の有権者がファシズムを選択した、歴史に残る1日」と評価した。確かに選挙結果は自民・公明与党が総議席465の2/3を越える313議席を取り、改憲容認政党である希望の党と日本維新の会の61議席を加えると、安保法制支持の改憲派は374、総議席の8割を超える。しかし、この結果は、有権者が積極的に求めたものではない。

強まる政権批判の下で

安倍首相がこの時期に衆議院選挙を仕掛けた理由が「森友・加計疑惑」隠しにあったことは多くの国民が共有していた。実際、安倍政権の支持率は急激に低下していた。その背後には秘密保護法、安保法制、共謀罪法と、いずれも専門家が憲法違反と判断した法制を、国会で強行突破して制定した国民主権無視の政治姿勢への不信の高まりがあり、また防衛省・文科省・外務省などによる情報隠蔽体質や、沖縄の辺野古・高江新基地建設を強行する強権的対応への批判の高まりがあったと言える。

こうした中での選挙である。安倍政権は「野党共闘」が実現すれば、自民・公明与党が議席の2/3を獲得することは難しいと判断していた。実際、朝日新聞(10月23日)は、今回の選挙で「野党分裂型」で投票が行われた226選挙区のうち、「野党共闘」が実現していれば63選挙区で勝敗が入れ替わり、与党120議席、野党106議席となると試算している。

なぜ野党共闘は分断されたか

「野党共闘」が分断された理由は、希望の党の設立に伴い、民進党が希望の党への「合流」を決め、しかし、希望の党が「安保法制の容認、9条を含めて改憲の討議」を踏み絵として示し、希望の党側が「合流を認める民進党候補者を選別」する方針であることを明言したことに端を発したものである。

小池東京都知事がこの時期に希望の党を設立し、前原民進党代表に「合流」を呼びかけた理由について、週刊朝日(2017・11・17)は、「米国を巻き込んだ憲法改正、野党分断などの日本改造計画が着々と進行していた」とし、その一つとして、「2016年6月、現希望の党の細野・長島氏、前原前民進党代表などがラッセル米国務次官補(当時)などと安全保障について話し合った国際会議“富士山会合”」の存在を示している。つまり、「野党共闘」が分断されたのは、日本を戦争する国に変えようとするさまざまな勢力の共同作戦の結果とみられるのである。

安倍9条改憲NO! に向けて

国民の多くは今回の選挙結果に満足しているわけではない。10月23・24日の世論調査(朝日新聞)によれば、「与党の議席数は多すぎる:51%、ちょうどいい:32%」「安倍政権が評価されたとは思わない:65%、評価されたと思う:26%」「安倍政権の進める政策を不安に思う:54%、期待する:29%」「安倍首相の9条改憲案に反対:45%、賛成:36%」となっている。

一方、安倍首相は、選挙後の記者会見で「改憲は自衛隊明記で議論する」と発言、来年2018年には衆参両院の憲法審査会での討議を経て、通常国会で改憲原案を発議、国民投票にかけた上で、2020年を待たずに「アベ憲法」を施行する意向を示している。

今、我々に求められていることは、トランプ大統領訪日に際して見せた従属的な対米関係をもとに、9条改憲に前のめりに取り組もうとしている安倍政権の危うさを可視化し、安倍政権に不安を持つ多くの国民と共に「安倍9条改憲NO!」の運動を広めていくことである。

「九条の会」は、今の日本を「戦後日本の歴史と憲法の岐路」に立っていると規定、その上で、「草の根からの対話と宣伝を広げ」、憲法を生かす全国統一署名として「300万署名」に取り組むことを呼びかけている。

情勢は厳しいが、あせらず、あわてず、あきらめず(伊藤真)、活動を続けていきたい!(長田満江)



当会では第3日曜日に定例署名行動、9日に9の日署名を行なっています。また直接、個人署名を頂いております。他団体とのスタンディング、パレード、集会などの場でも署名を行なっています。皆さまのご参加お待ちしております。

「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2017年11月13日現在
総数 970名 (市内 701名)
◆9条署名 11月10日現在 16,964筆

憲法カフェ

桜ニュータウンの報告

10月14日(土)10時~12時、広岡交流センター 2階会議室(つくば市下広岡 桜ニュータウン内)にて、参加者14名(男性6名女性8名)、「憲法を守るために」をテーマに3グループに分かれて以下のテーマでグループ討論によるワークショップを行いました。テーマ:憲法を守るために私たちにできることは何か、①誰に何をどのように伝えていくか?②若者に参加を促すために何が出来るか?

お互いの考えをポストイットに書いて、模造紙に貼り、各グループよりどんな意見が出たか発表しました。様々な意見、アイデアが出ました。そして、「憲法カフェ・桜ニュータウン宣言」として次のように集約しました。『身近な人に 若者に、憲法の素晴らしさを、わかりやすく さりげなく、自分のことばで伝えよう』

身近な人は夫であり妻であり家族であり、ご近所であり、職場の同僚、友人知人であり…各人それぞれが接点を持っている人々です。60代以上の方々で問題意識を持っている方は多くいらっしゃいますが、10代~40代の人々はどうでしょうか?もちろん個人差はありますが、仕事や学業に追われて、憲法についてまで意識が回っていないように思われます。しかし、憲法改悪がなされ、万が一にも9条が壊されるようなことになったら、真っ先に若者たちが直接影響を受けることになります。若者たちにも、こうした憲法学習会にもぜひ参加してほしいのです。そして、身近な人や若者たちに、立憲主義や平和主義、基本的人権など日本国憲法の素晴らしさ伝える際には、むずかしくならず、わかりやすく、敷居を低くし謙虚にさりげなく自分のことばで伝えたいと思うのです。6回にわたり学んできたことは、日本国憲法の立憲主義、基本的人権、平和主義など憲法の持つ素晴らしさです。テキストとして、黒澤いつきさんのパンフレット「憲法のあるこの社会を守るために」(立憲フォーラム)を使いました。9条の会つくばからも、第2回の基本的人権を長田満江先生、第3回の9条、平和主義を武田照子共同代表、第4回の緊急事態条項、北朝鮮問題を野崎浩司共同代表が講師としてお話しくささいました。また第5回は押しつけ憲法論にどう向き合うか、平和遺族会全国連絡会代表の西川重則先生に講演頂きました。第6回目の最終回には、ワークショップに先立ち、国会における憲法審査会の動向と、この学習会を立ち上げた阿部眞庭世話人から、「憲法カフェをなぜ始めたいと思ったか」について、この学習会の原点に立ち返るメッセージが力強く語られました。

なお、「憲法9条の会つくば」の紹介と賛同人になる

ことをお勧めして、8名の方が賛同人になってくださいました。以上、報告いたします。(石上俊雄)

憲法9条守ろう10.21

県南大集会報告

今年10月21日が土曜日にあたるため午前10時から、つくば市中央公園で開催されました。当日は雨天のため参加者は例年より少なく(約200名?)、集会前に予定していた安倍9条改憲NO全国3000万署名もできませんでした。傘をさしてのデモ行進は、道行く人や走行中のドライバーの目を引いたのではないのでしょうか。

安倍首相は今年の5月3日、憲法9条に自衛隊明記、2020年施行を公言しています。私は、憲法9条に自衛隊を明記すると9条2項が死文化し、自衛隊が無制限に海外で武力行使できるようになってしまうと決意表明で述べ、翌日の総選挙では是非、投票に行きましょうと呼びかけました。集会後には秋空の下、食べて、歌っての楽しい交流会が予定されていたのに残念でしたが、テントの下でカレー、豚汁、お惣菜などの店が開かれ、売れ行きは上々のようでした。(武田照子)

スタンディング & 署名

11月3日は、日本国憲法施行から71年目になります。この日、安倍9条改憲NO! 全国市民アクションが呼びかけて、「11・3国会包囲大行動」が開催され、4万人を超える参加者で国会前広場が埋め尽くされたとのことでした。つくばからも、多数の方々から東京に向かったと思います。つくばでも、11月3日には、いつもより多くの参加者を得て、活動しました。その①「アベ政治を許さない」のポスターを掲げてスタンディング。参加者は、いつもより多い15人。東京に行きたいけれど体調がいまひとつ、という方。従って、やや年齢の高い方が多かったようにも思いました。とはいえ、アベ政治への怒り、戦争する国にはさせないとの強い思いの溢れるスタンディングでした。その②「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名」活動こちらもいつもより多い11人が参加し、上記署名及び「核兵器廃絶署名」を呼掛けました。場所はアルス前。残念ながらつくば中央図書館は閉館でしたが、図書館前でこもれ陽を浴び、色づき始めた落ち葉を踏みしめての署名活動でした。この日、1時間足らずの時間でしたが、署名は憲法9条の会つくばに寄せられたものだけで29筆、新婦人の会、年金者組合も署名を集めており、合計は59筆を数えたとのことでした。「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名」活動を広く実施するために、つくば連絡会を設立する計画が進んでいます。これからもどうぞご協力下さいますよう、お願い致します。(長田)

R 帝国

中村 文則 著

中央公論新社／2017年／1600円・税別



「朝、目が覚めると戦争が始まっていた」という書き出しで小説が始まる。隣のB国の核兵器発射準備に対して大R帝国が空爆で阻止し、宣戦布告をした。そしてR政権は「緊急事態国民保護法」を発動する。

この国の人々が、高度に発達した機械文明に埋没して、画一的な生活を送り、時に衝動によって激高し、人間的な思考が停止している日常が描かれる。それもすべて「“党”の意志」によって社会が形成されていることによる。この国の電子辞書に「抵抗」という言葉はない。

しかし、R帝国の最北の島・コマ市を突然空爆したのは、遠く離れたY宗国の無人戦闘機だった。巨大ビルの崩壊、逃げまどう群衆、地上部隊による殺戮、レイプ、パニックの中での人間心理・・・「戦場」がリアルに描写される。戦禍の中で、「権力と弱者」「国家と個人」の関係が浮かび上がる。

R帝国の“党”は、(この小説の中に架空の国として出てくる)「日本」という国と同じで、第二次世界大戦の沖縄戦のように、「目的を達成するために必要なら、国民が何人死のうが仕方がないと思っている」国なのだ。

「軍需産業と一体化」した“党”——「利権団体」と国家の謀略によって、戦争は恣意的に引き起こされる。そして、国民は“党”の情報操作に乗って、Y宗国を憎悪しコマ市民を犠牲にする開戦を叫ぶ。「R帝国万歳！」

「戦争」によって人々が高揚する。移民や生活保護者に対するヘイト・スピーチ、ネットでの悪意に満ちた炎上…。それらは“党”の「ボランティア・サポーター」によって拡散されていく。「事実？ そんなものに何の意味があるの？」と嘯きながら。

作者は、このフィクションを通して、資本主義の搾取の本質や、独裁国家の形成過程や、戦争というシステム

について、縦横に論じている。さらに、人間にとって不可欠になった人工知能の在り方についても、リアルに語る。「萎縮は伝播する」「人々が欲しいのは、真実ではなく半径5メートルの幸せなのだ」等々——現代がそのまま小説の中にある。人間の“衆愚”が繰り返されるのが人類史なのか。それを“全体主義”として煽り、利用するのが“権力”のやり方である。その中で闘う何人かの登場人物は、弱いけれども凛々しい。

小説の〈エピローグ〉は、再び「朝、目が覚めると戦争が始まっていた。」と書き出される。物語の中に「希望」はない。それを生み出すのは私たちなのだ。いま、何が起きているのかに気づき、危機感を持たなければならぬ。

まったく別の本ですが、『茶色の朝』(フランク・パヴロフ)という小さな寓話をご存知ですか。普通の市民が何とはなしに日常生活を送るうちに、すべてが「茶色だけ」になり、それ以外の色を持つあらゆるものが消し去られてしまう。「茶色党のやつら」が全体主義的な法律や施策を次々に課してきて、「妙な感じ」を抱いても、それ以上深く考えることをせず、「茶色に守られた安心、それも悪くない」と思ってしまふ。自分自身に「茶色の朝」が訪れるまで——。

2002年のフランスの大統領選挙で、人種差別と排外主義を唱える極右政権が生まれそうになった時、人々はこの本を読んで、自分たちが置かれた状況の意味を理解し、何をなすべきか考えようと思いました。

日本語版(藤本一勇・訳/大月書店/2003年)のメッセージで、哲学者の高橋哲哉氏はこう述べています。「思考停止をやめること、考え続けること」「勇気をもって発言し、行動することは、考え続けることの上でたったのみ可能なのです」(後藤)

行動予定

11月18日(土) 世話人会・結78号発行

11月19日(日) 11:00~12:30 戦争法廃止行動チラシ撒き&3000万筆署名(センター広場ライトオン前)
13:30~ 研学九条の会講演会(大穂交流センター)

12月3日(日) 13:00~アベ政治を許さないスタンディング(TXつくば駅)

12月8日(金) 18:30~12.8不戦のつどい(並木交流センター大会議室)

12月9日(土) 12:00~9の日署名(図書館前)

12月16日(土) 事務局会(市民活動センター予定)

12月17日(日) 12:00~定例署名(ライトオン前)

12月19日(火) 18:00~戦争法廃止行動チラシ撒き(TXつくば駅改札口)

2018年1月3日(水) 13:00~アベ政治を許さないスタンディング(TXつくば駅)

1月9日(火) 12:00~9の日署名(図書館前)

1月14日(日) 成人式署名(時間未定・つくばカピオ)

インフォメーション

◆12・8不戦のつどい

日時 2017年12月8日(金) 18:30~20:30 開場18:00

場所 並木交流センター 大会議室(2階)

講演 茨城大学 佐々木啓さん

テーマ 戦争する国のつくり方—「先の大戦」から考える

参加費 500円(資料代+ふかしイモ)

*9条の会つくばは今年も「ふかしイモづくり」に協力します。「12・8不戦のつどい」を県内で取り組んでいる所は少なく、貴重な集まりです。ぜひご参加下さい。